

賀寿園グループホーム愛 ユニット②

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念を念頭に置き、「和顔愛語」の信条のもと「優しい言葉」「温和な笑顔」を職員間で共有し、「その人の思い」に寄り添うサービスの提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への参加は、新型コロナウイルスの影響もあり、市や法人の行事が行えない状況である。利用者様も高齢で身体機能の低下している方が多くなってきている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	新型コロナの影響で、地域の方々との交流等が行えていないが、感染が沈静化している時は法人で地域の小学校に出向き「福祉体験」を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行っている。コロナ感染が流行している時は各委員の方々に電話で連絡を行い、当施設の状況の説明や委員の方々の意見を聞き、実践にいかすように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議やコロナへの対応、その他の小さな疑問などについて市の担当者に相談を行い、助言をもらっている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会」を定期的開催。事例をあげ「身体拘束につながるようなことは何か」職員同士で共通理解を持てるよう取り組み、身体拘束を行わないに努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止については日々行っているケアの中で虐待につながる可能性はないか、職員同士が意識して取り組んでいる。理念を意識したケアの取り組みを常々声をかけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>コロナの影響で研修への参加が難しいところがある。現在、成年後見制度を使用されている利用者様がいる。管理者から職員へ制度について説明し、制度への理解に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様とご家族様に対して契約書や重要事項説明書等の文書と口頭で十分に説明し、了解をいただいている。利用料金等が変更になった場合等は同意書ももらいご理解をいただくように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会や意見交換会を行うのが、難しい状態である。毎月、担当者からの手紙と一緒にご意見用紙を送付し、面会時にはご家族様と会話をし意見をいただける環境を作るように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットで毎月会議を開催し、職員から日々の疑問やケアに対しての改善点などを設けている。会議以外に問題等がある場合は、その都度意見を聞き、適切な運営ができるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	提言・自己申告表を作成し、職員の意見や・要望等が伝わるように努めている。親睦会からもアンケート等があり代表者と話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナの影響で外部研修への参加が難しい状態である。日々の業務の中でケアに対しての助言やケア方法の指導行うように努めている。WEB研修等への環境も整いつつあるので今後は活用していきたいと思う。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修等に参加した職員はその際に、他事業所の職員の方と交流を設けている。研修に参加できていない職員はコロナ禍の現状では外部との交流は難しい状態である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様とご家族様との面談を通じて、ご本人様の思いやご家族様のご要望を聞き、可能な限り思いやご要望に答えられるように努めている。安心して生活していただくためにご家族様にもご協力をいただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、ご家族様に不安や悩み、今後の希望等を聞かせていただいている。サービス導入後は定期的に連絡を行い信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様とご家族様や担当ケアマネに入所前にご要望や不安、悩み等を聞き入れるように努めている。事前情報をサービス開始とともに反映できるようにし、必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様のできることを把握し、できることをご本人様のペースで行ってもらうように努めている。会話を多く持ち関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で来園の機会を作り、ご利用者様と交流ができるように働きかけている。コロナが沈静化している時は外泊も行ってもらった。ご家族様とは定期的に電話や手紙、広報誌等で状況報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で馴染みの場所や人に会えない状況にあるが、交流がとぎれないように、ドライブ支援や面会等の機会を設けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や認知度、身体機能等を配慮しながら、テーブルの位置や席の位置を決めている。また、心身の状態や感情の変化などに注意し、良好な関係が保てるように職員が調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了された方には、ご利用者様が過ごされた時の写真をお渡ししている。必要に応じて連絡を取らせていただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向や思いを表現できるご利用者様には、会話等を通じて意向にそえるようにしている。表現が難しいご利用者様に関しては日々の行動や何気ない発語等を聞きもらさないように努め、職員間で共有するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に入居までの経緯や生活歴等をの情報を把握しているが、情報が足りないときなどは本人様にお聞きしたり、ご家族様からお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録表に排泄や食事量、水分量を記録している。特記事項なども記録して、職員間で情報を共有するようにしている。健康状態も別紙にて記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人様やご家族様との関わり、職員の気づきことなどを話し合い、介護計画に反映するように努めている。アセスメント、モニタリングを行い、できる限り本人本位の介護計画になるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や状態の変化については個別記録に記載し、状態の変化については申し送り欄に記入している。職員間で新しい情報を共有するように努めている。職員同士の日々の会話の中で共有する場合も多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の認知症状の低下や身体機能の低下に伴い、今まで実践できていたケアが難しいときは、一定期間経過を観察してご家族様に報告、相談し柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様やご家族様が安心して過ごして頂けるように、コロナ禍の現在は消防署を招いて、法人消防訓練（机上訓練）などを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様の希望に沿って入居前からのかかりつけ医を利用したり、かかりつけ医の変更希望がある時などは柔軟に対応するように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置している。勤務歴も長く顔なじみの関係性ができている為、ご利用者様の健康管理についても連携し、受診支援や健康状態の報告、観察に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、ご利用者様のこれまでの経緯やADL、認知症の症状を医療機関に情報提供している。定期的に病院のケースワーカーの方とご本人様の状態や退院の時期などの情報を交換し、スムーズに退院ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期・看取りに関しての指針を作成している。看取りについてのご家族の意思やご希望をふまえて、事業所でできること説明し、理解をいただき同意を得たい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生においての緊急マニュアルを作成、職員が共有できるように事務所に掲載している。上記の際は、理事長、看護師・管理者・リーダーへ報告し、適切な対応ができるように連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人での防災訓練を消防署を招いて行っている。（机上訓練） コロナ禍で避難訓練等が行えない状況であるが、職員と意識の共有を行ってる。年2回の消防設備点検も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念や事業所理念を常に意識をして取り組んでいる。「優しい言葉」「温和な笑顔」「人生の先輩に感謝を」を意識した言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や入浴等を無理強いせず、本人様の意思確認と同意をもらい行っている。自己決定権を尊重できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の個人の生活ペースや行動を重視、ご利用者様が過ごしやすい生活ができるように支援している。できる範囲1人1人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服の選択や整髪・洗面等の身だしなみは自分で行なえる方に関しては行ってもらっている。介助が必要な方に関しては、残存機能を活かし、行えない部分は支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁などを使用できるご利用者様に関しては、野菜などを切ってもらったり下ごしらえを協力してもらっている。食事は自分のペースで食べていただき、できるだけ本人様の食べたい時間を考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、隣接する特養の管理栄養士に助言をもらいながら、献立を作成している。水分量や食べる量については個々の状態や希望に応じて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内の洗浄と義歯洗浄を行っている。夕食後は義歯を消毒し、清潔を保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを職員間で共有し、排泄回数が少ない方などはこまめに声かけを行い、本人様の状況や行動を把握するように努めている。1人1人の排泄のサインを見逃さないように行動を注視している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便の状況を個別記録等で確認している。ラジオ体操などを行い便秘の解消に努めている。排便困難な方に関しては、看護師に相談し、医師と連携し下剤などの検討をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、行事や勤務の関係で午前中に入浴を行っていることが多い。できる限りご本人様の意向に沿って入浴支援を行っている。湯船につかる方も多くゆっくりと浸かってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は1人1人安眠できるように、室温・湿度の調整や光の入り方等の環境について気をつけている。居室で自身の時間を大切にされる方に関しても安心して休息ができるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携記録と一緒に薬状を綴っており、職員間で情報共有できるように努めている。内服薬の変更、新規内服薬の服用があった場合は職員間で共有するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗いやお膳拭き、洗濯物たたみ等をご利用様の表情や言動を見ながら、協力をお願いしている。ご利用様が意欲的に取り組んで下さるように感謝の言葉かけを忘れずに接している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出がままならない中、ご利用者様からの希望や季節ごとの開化の時期に合わせて、職員がドライブ支援などを行っている。コロナが沈静化している時は外泊を行って下さるご家族様もいらした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に金銭管理は行っていない。ご利用者様から要望あればご家族様に要望されたものを持参していただいている。KPが遠方の方が少しずつ増えてきているので、今後検討しないといけないと思う。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>事務所に電話機を設置している。ご利用者様やご家族様から要望が居室に電話機を設置している方もいらっしゃる。年賀状や残暑見舞い等を利用者様に書いてもらい、郵送している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間のリビングにはソファや家具などを設置している。温度や湿度は空調やカーテンなどで調整し、過ごしやすい環境を心がけている。廊下などにも毎月利用者様と一緒に作成する物を配置し、季節感を感じていただけるように心がけている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを設置しており、食事以外はソファで過ごされる方が多い。馴染みの関係ができていても多く座りながら談笑をされたりされる。1人でユニット内を散歩される方には自由に過ごしていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所前にご利用者様やご家族様と相談し、使用されていたソファや椅子、写真など馴染みの物や思い出の品を持参して頂いている。環境が変わることへの不安の解消に努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>1人1人の「できること」「できないこと」「わかること」等を観察し、個々に応じた支援ができるように努めている。認知機能、身体機能の低下で「できなくなってきている」事に関しても職員間で話し合い、できるだけ自立した生活を送っていただけるように努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない